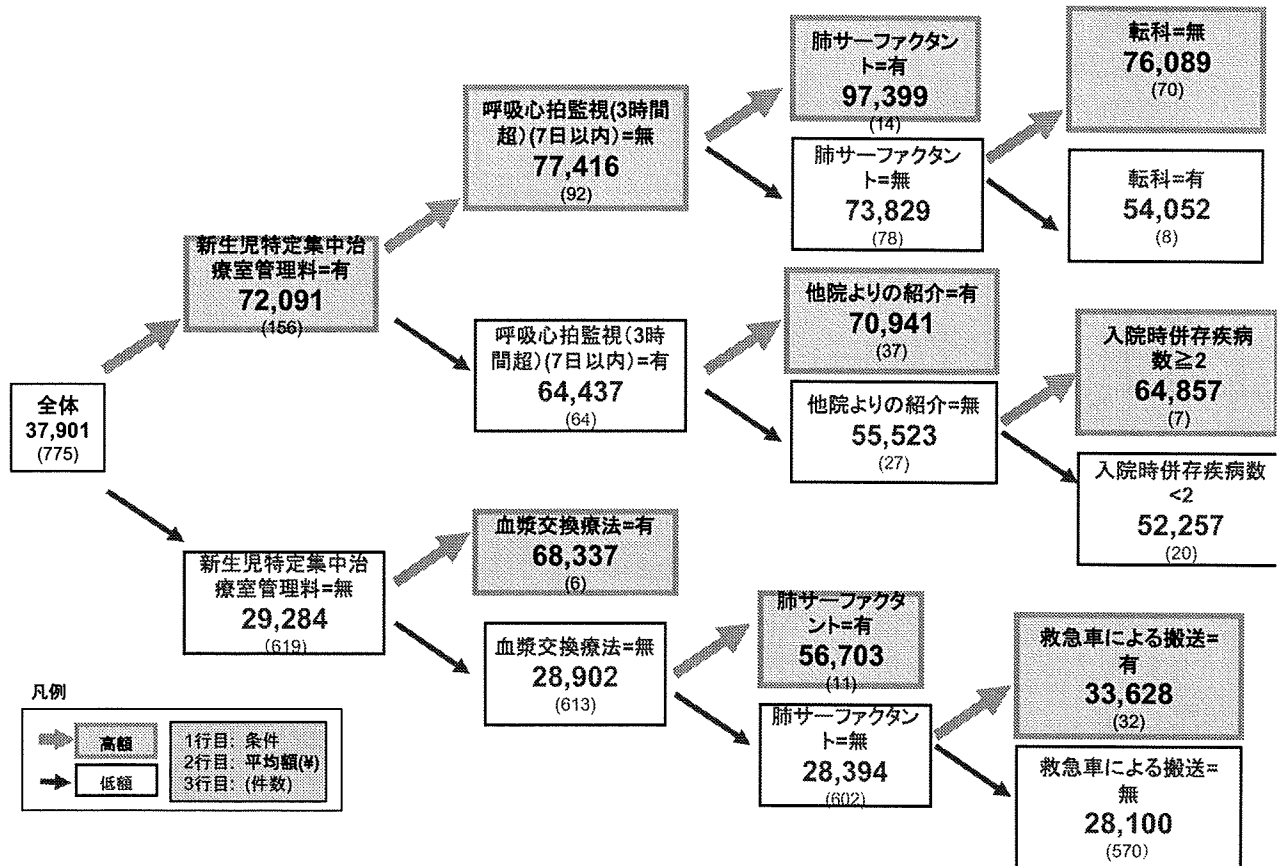


**在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因**

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

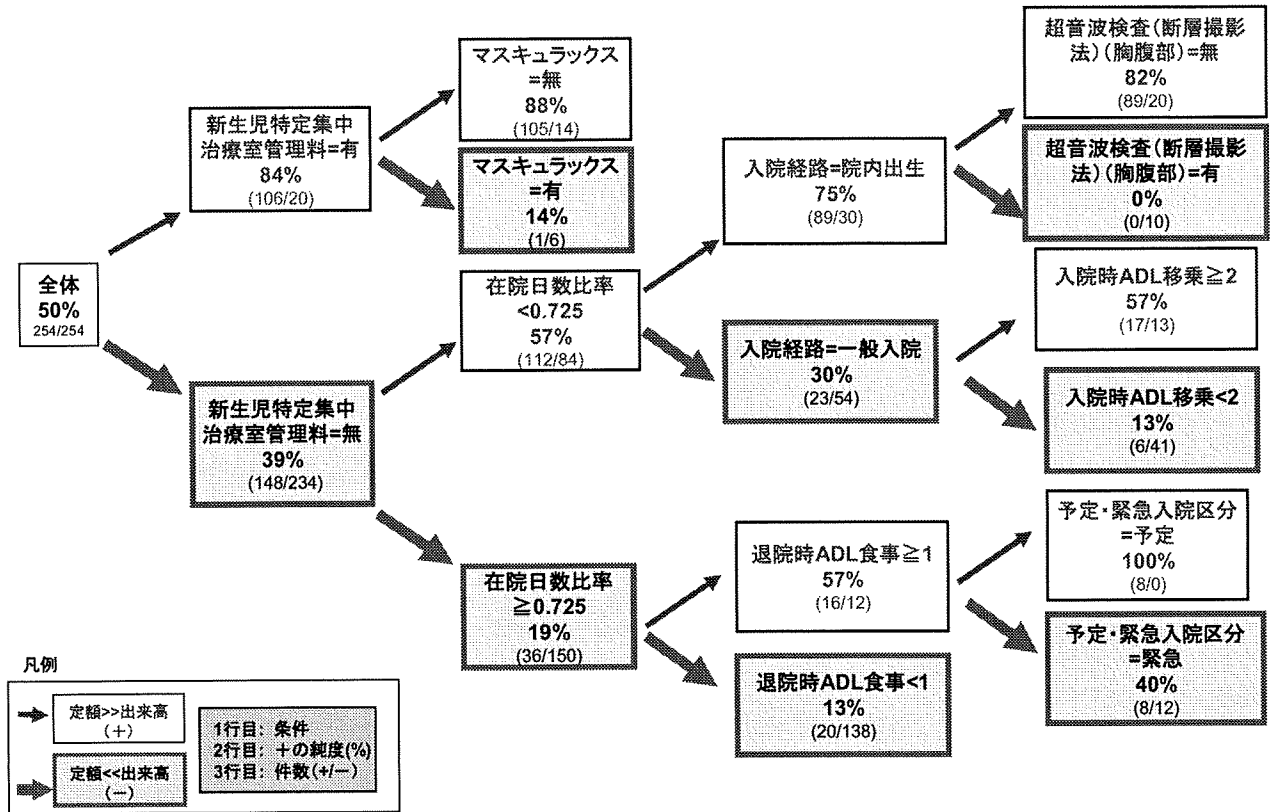
- 造血因子エリスロポエチン療法=有
- 輸血=有
- 中心静脈栄養=有
- 鼻腔栄養=有
- 呼吸心拍監視(14日超)=有
- 手術 =97



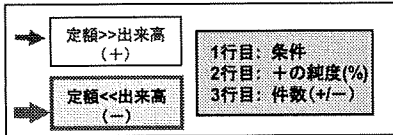
**出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因**

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 新生儿特定集中治療室管理料=有
- 呼吸心拍監視(3時間超)(7日以内)=無
- 血漿交換療法=有
- 肺サーファクタント=有
- 他院よりの紹介=有
- 転科=無
- 入院時併存疾病数≥2
- 救急車による搬送=有



凡例



**定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点**

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

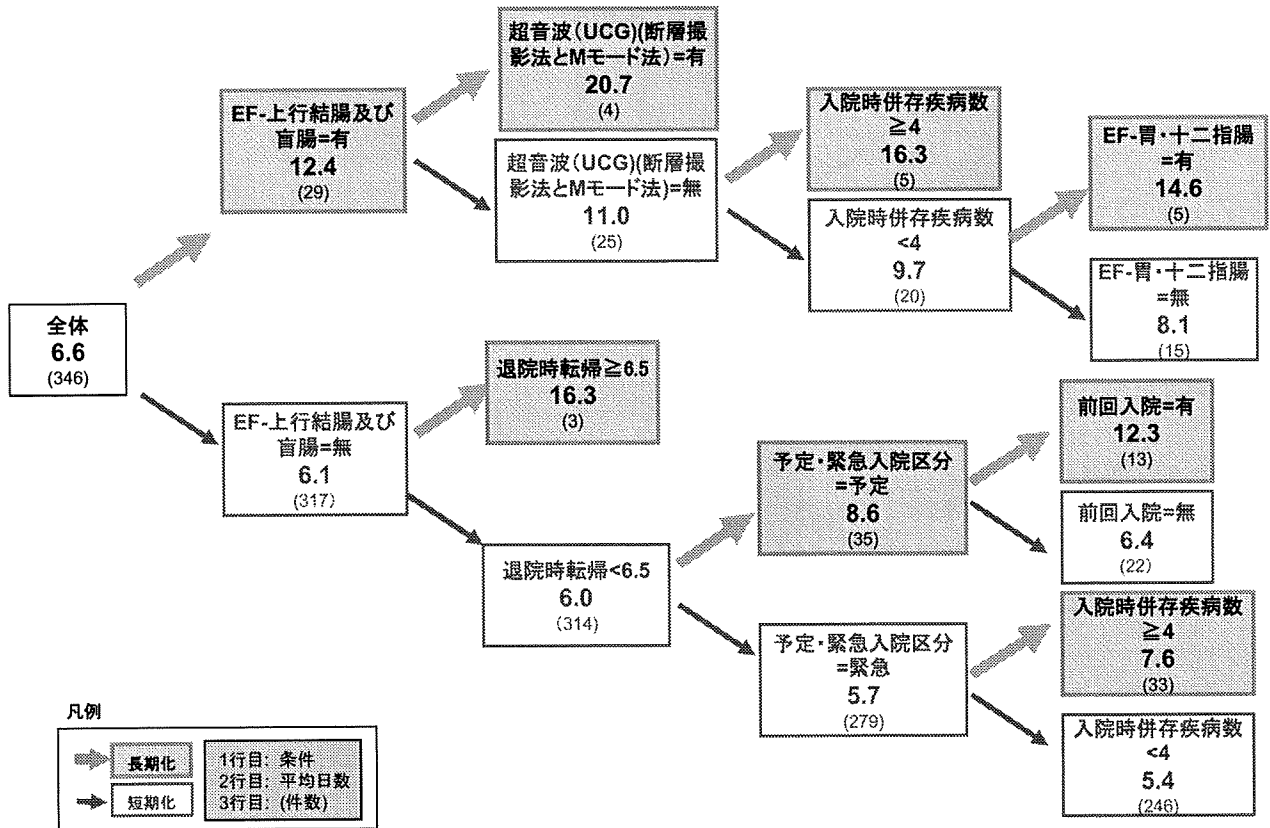
- ・マスキュラックス=有
- ・在院日数比率 ≥ 0.725
- ・退院時ADL食事 < 1
- ・超音波検査(断層撮影法)(胸腹部)=有
- ・入院時ADL移乗 < 2

(\*) ADL食事  
 0: 全介助  
 1: 一部介助  
 2: 自立  
 9: 不明

(\*) ADL移乗  
 0: 全介助  
 1,2: 一部介助  
 3: 自立  
 9: 不明

DPC6=150010 ウィルス性腸炎

DPC6=150010 ウィルス性腸炎 在院日数 回帰木分析



DPC6=150010 ウィルス性腸炎 在院日数 回帰木分析

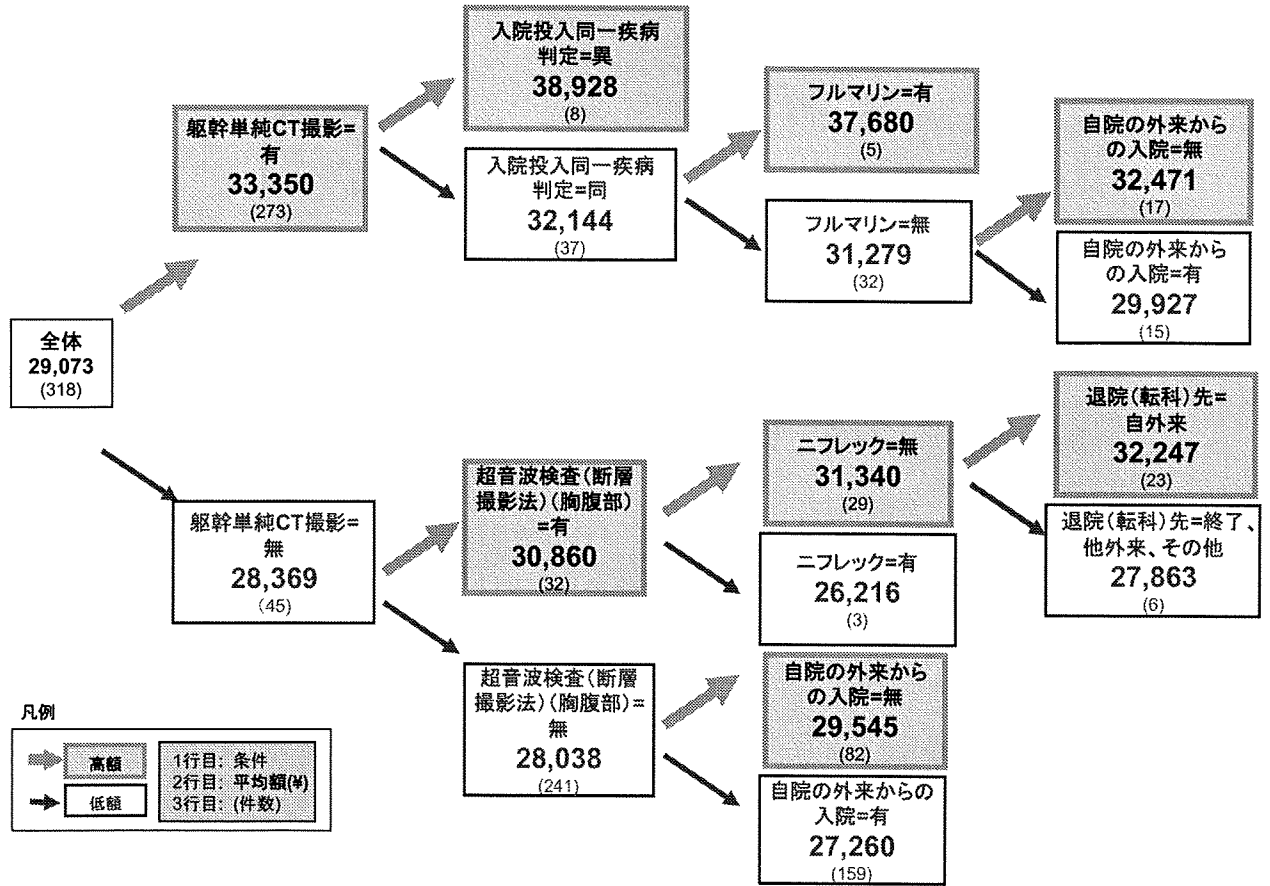
**在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因**

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- EF-上行結腸及び盲腸=有
- 超音波(UCG)(断層撮影法とMモード法)=有
- 退院時転帰 $\geq 7$
- 入院時併存疾病数 $\geq 4$
- 予定・緊急入院区分=予定
- 前回入院=有

- (\*) 退院時転帰
- 1 : 治愈
  - 2 : 軽快
  - 3 : 寛解
  - 4 : 不変
  - 5 : 増悪
  - 6 : 死亡
  - 7 : その他死亡
  - 9 : その他

DPC6=150010 ウィルス性腸炎 出来高換算額/日 回帰木分析

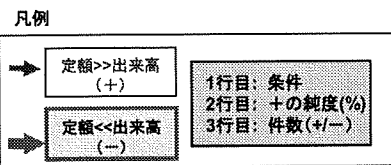
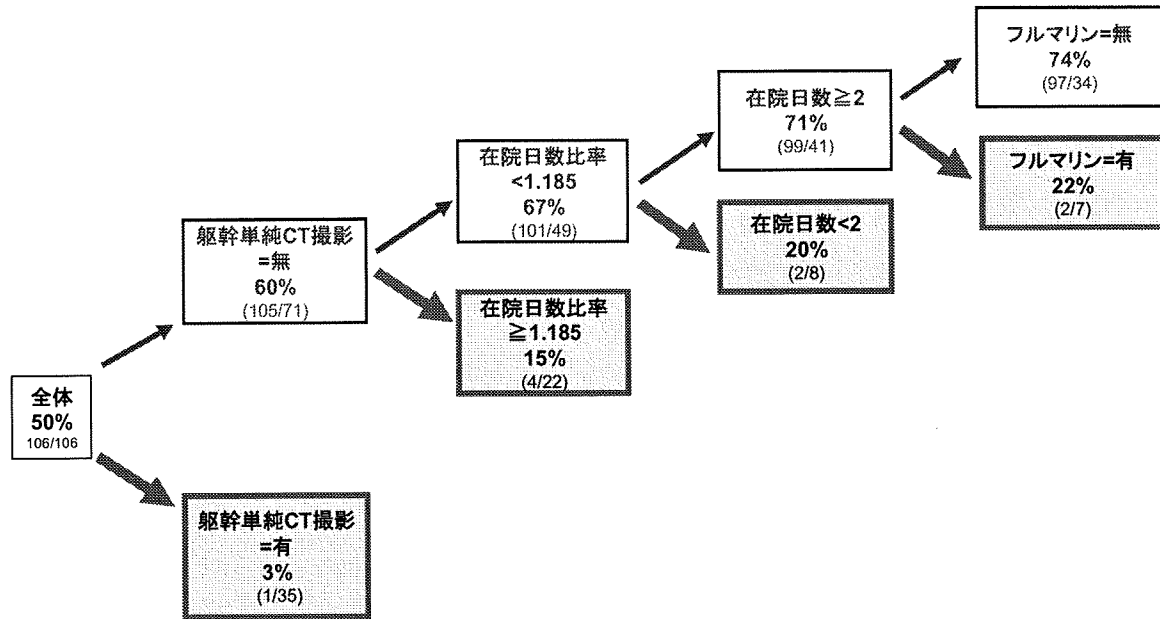


DPC6=150010 ウィルス性腸炎 出来高換算額/日 回帰木分析

出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 躯幹単純CT撮影=有
- 入院投入同一疾病判定=異
- 超音波検査(断層撮影法)(胸腹部)=有
- フルマリン=有
- ニフレック=無
- 自院の外来からの入院=無
- 退院(転科)先=自外来



定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

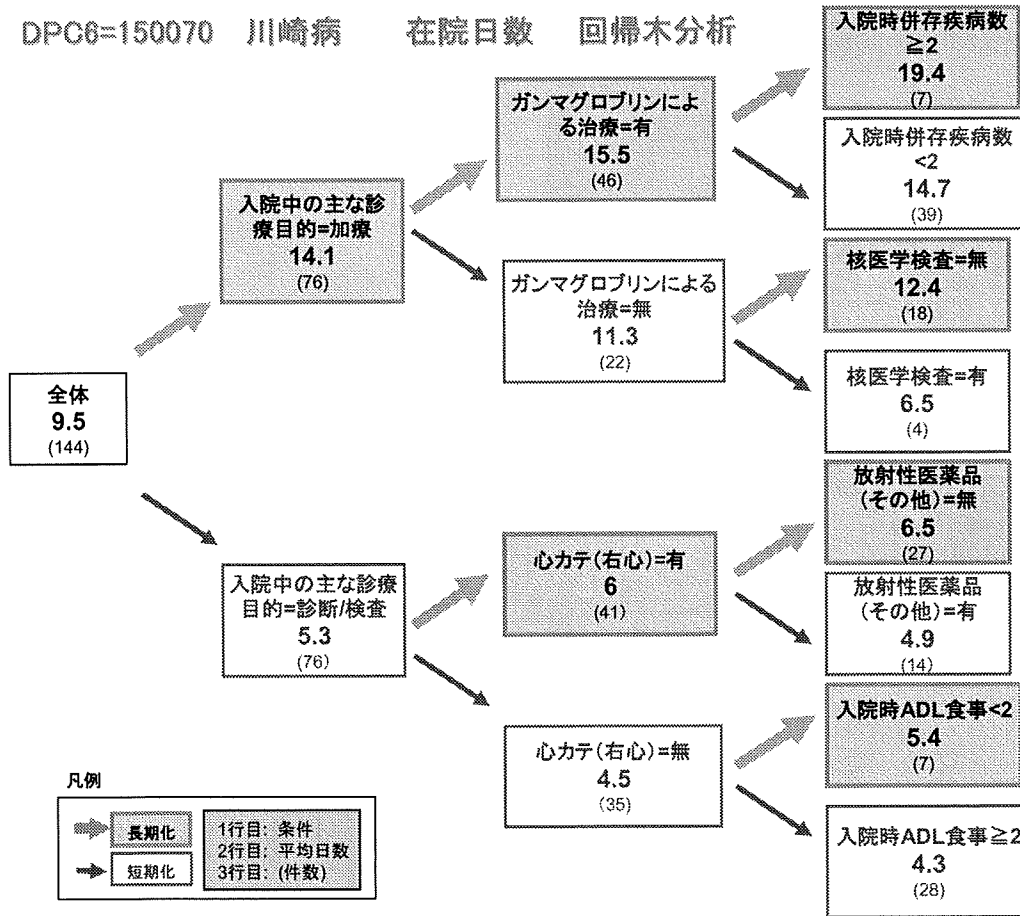
以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 躯幹単純CT撮影=有
- 在院日数比率 ≥ 1.185
- 在院日数 < 2
- フルマリン=有

DPC6=150070 川崎病



DPC6=150070 川崎病 在院日数 回帰木分析



DPC6=150070 川崎病 在院日数 回帰木分析

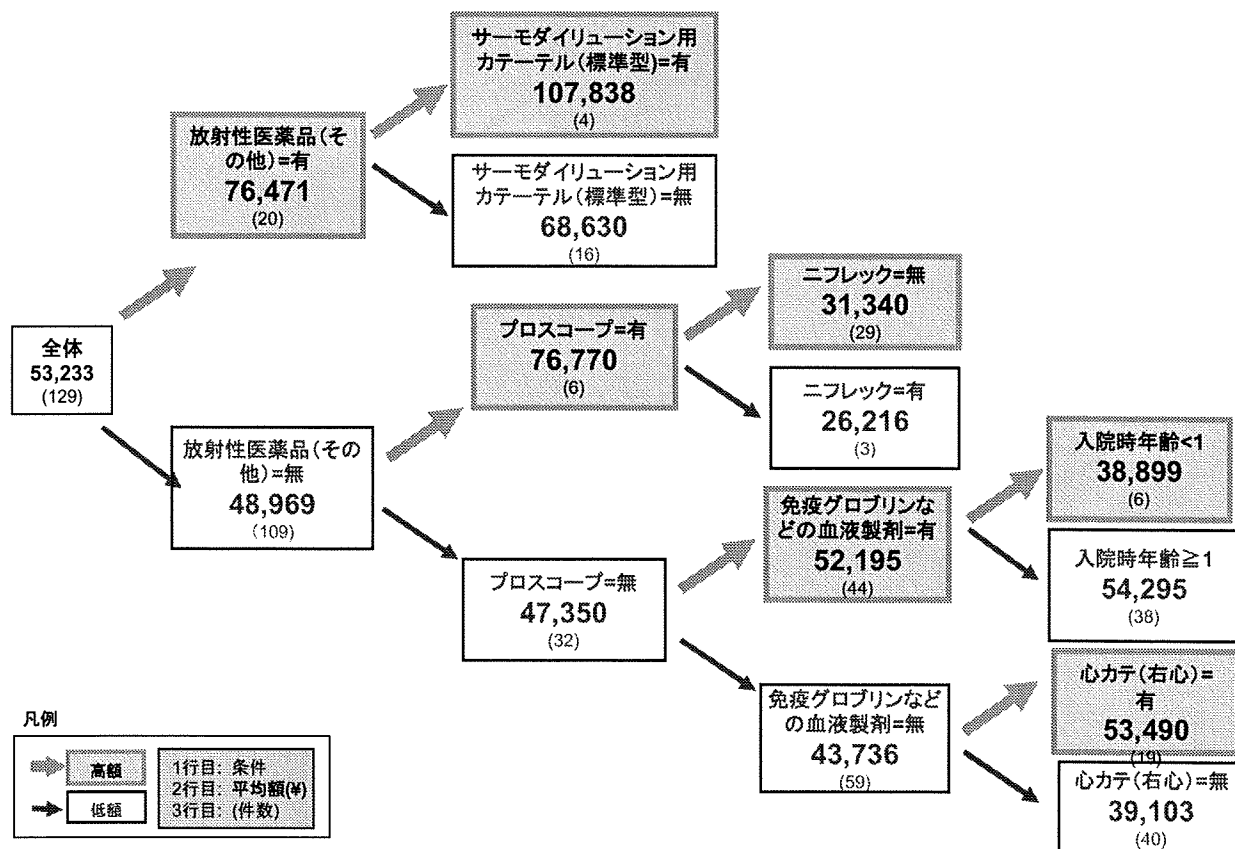
**在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因**

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 入院中の主な診断目的=加療
- ガンマグロブリンによる治療=有
- 心カテ(右心)=有
- 入院時併存疾病数 ≥ 2
- 核医学検査=無
- 放射性医薬品(その他)=無
- 入院時ADL食事 < 2

(\*) ADL食事  
 0: 全介助  
 1: 一部介助  
 2: 自立  
 9: 不明

DPC6=150070 川崎病 出来高換算額/日 回帰木分析

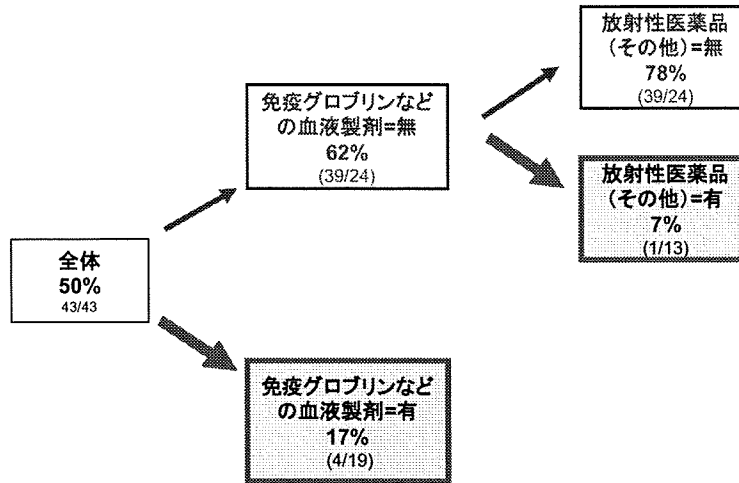


DPC6=150070 川崎病 出来高換算額/日 回帰木分析

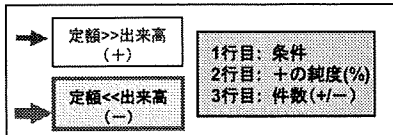
出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 放射性医薬品(その他)=有
- サーモダイリユーシオン用カテーテル(標準型)=有
- プロスコープ=有
- ニフレック=無
- 免疫グロブリンなどの血液製剤=有
- 入院時年齢<1
- 心カテ(右心)=有



凡例



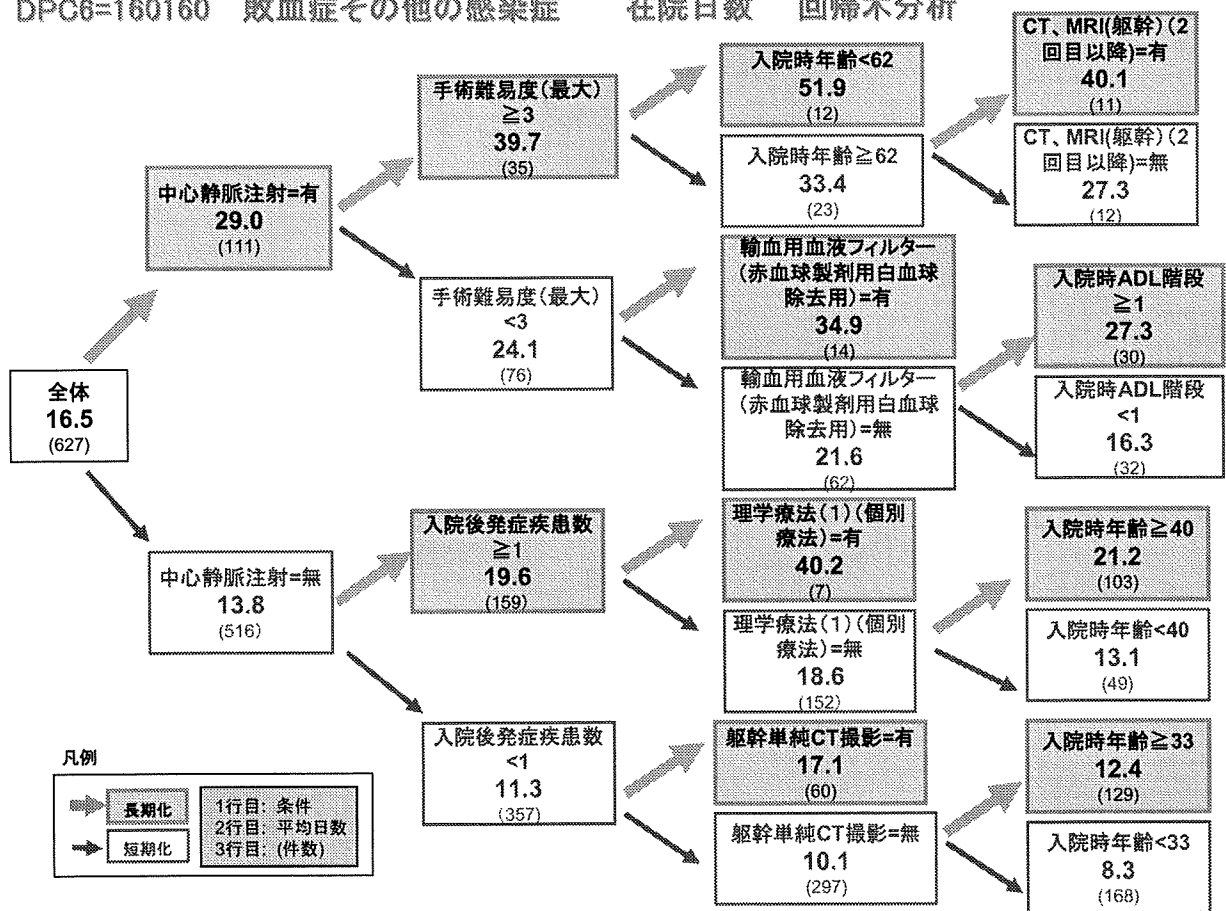
定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 免疫グロブリンなどの血液製剤=有
- 放射性医薬品(その他)=有

DPC6=160160 敗血症その他の感染症

DPC6=160160 敗血症その他の感染症 在院日数 回帰木分析



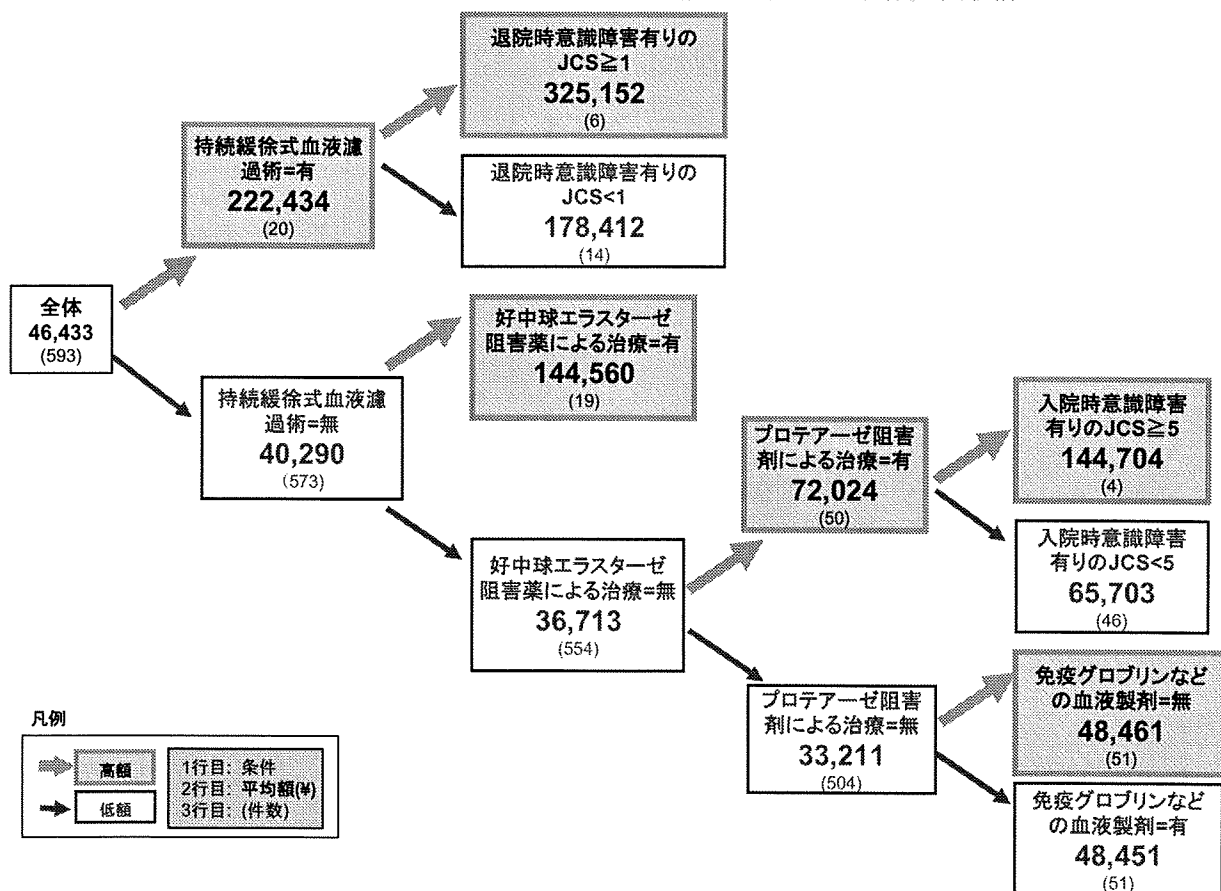
DPC6=160160 敗血症その他の感染症 在院日数 回帰木分析

在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 中心静脈注射=有
- 手術難易度(最大)  $\geq 3$
- 入院後発症疾患数  $\geq 1$
- 入院時年齢 < 62
- 輸血用血液フィルター(赤血球製剤用白血球除去用)=有
- 理学療法(1)(個別療法)=有
- 躯幹単純CT撮影=有
- CT, MRI(躯幹)(2回目以降)=有
- 入院時ADL階段  $\geq 1$

(\*) ADL階段  
 0: 全介助  
 1: 一部介助  
 2: 自立  
 9: 不明



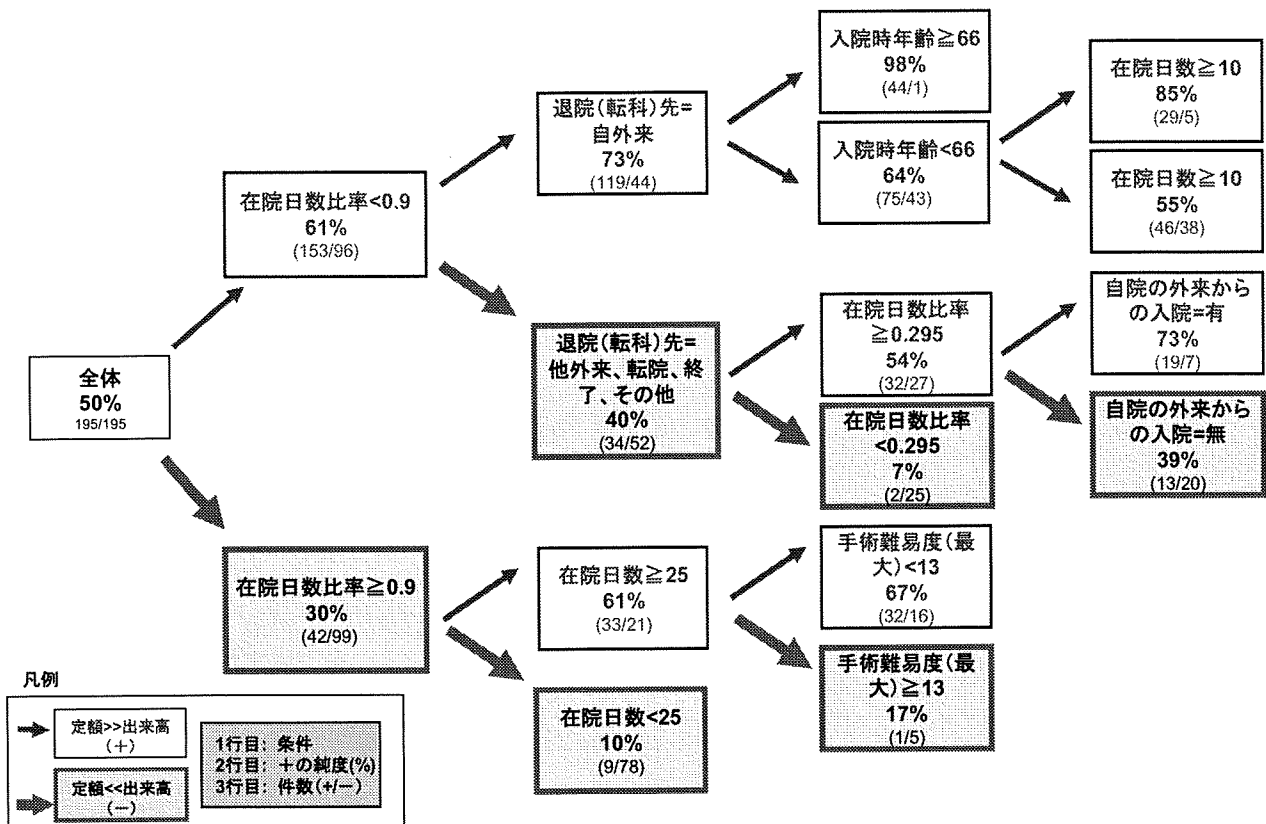
**出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因**

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 持続緩徐式血液濾過術=有
- 退院時意識障害有りの JCS $\geq$ 1
- 好中球エラスターゼ阻害薬による治療=有
- プロテアーゼ阻害剤による治療=有
- 免疫グロブリンなどの血液製剤=無

(\*) 意識障害有りの JCS(入院時および退院時)

- 0: 無
- 1: 清明とはいえない
- 2: 見当識障害あり
- 3: 名前、生年月日が言えない
- 10: 呼びかけで容易に開眼する
- 20: 痛み刺激で開眼する
- 30: かるうじて開眼する
- 100: 払いのける動作をする
- 200: 手足を少し動かしたり顔をしかめる(除脳硬直を含む)
- 300: まったく動かない



**定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点**

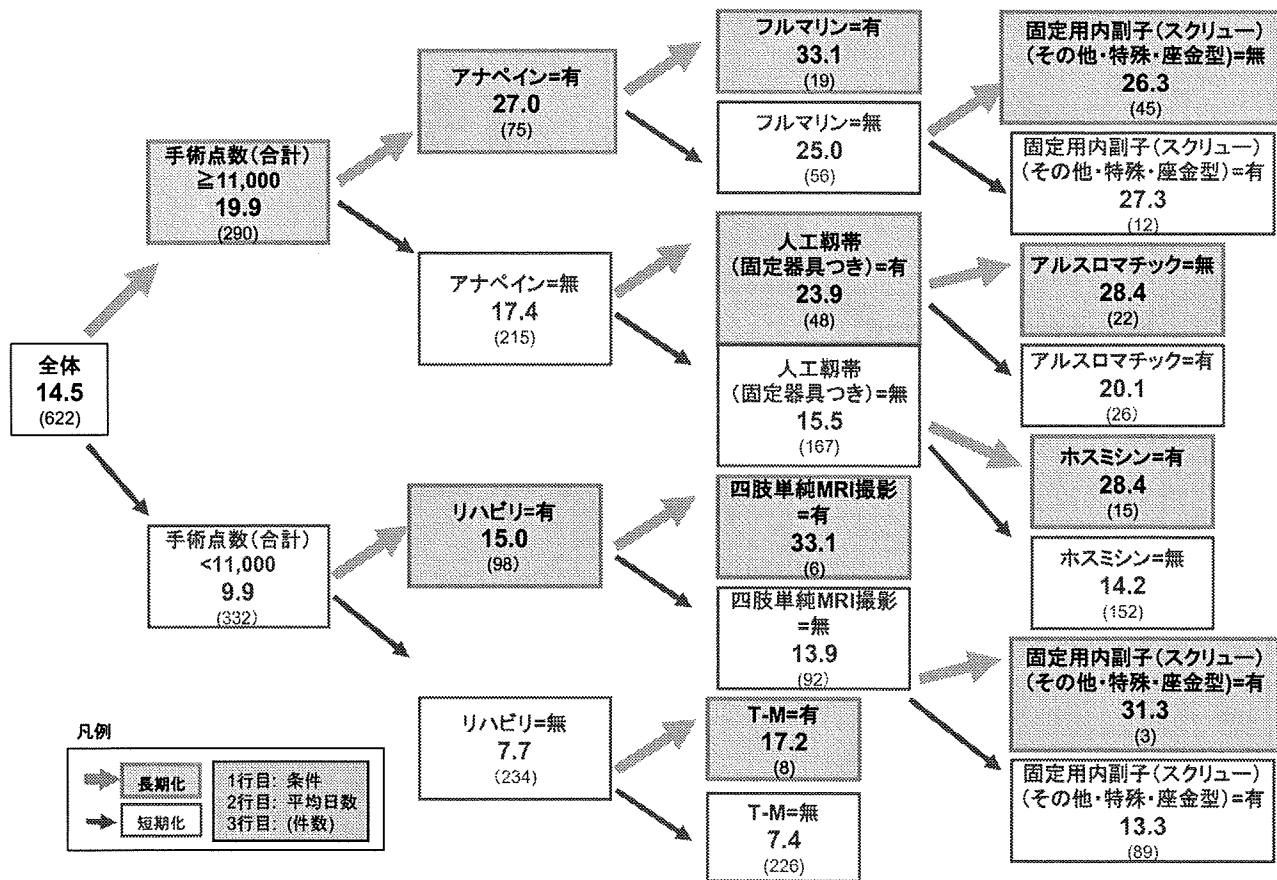
以下の条件の下では、特に顕著に定額が出来高を下回る傾向がある。

- 在院日数<25
- 在院日数比率<0.295
- 手術難易度(最大)≥13

DPC6=160620 肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。)



DPC6=160620 肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 在院日数 回帰木分析

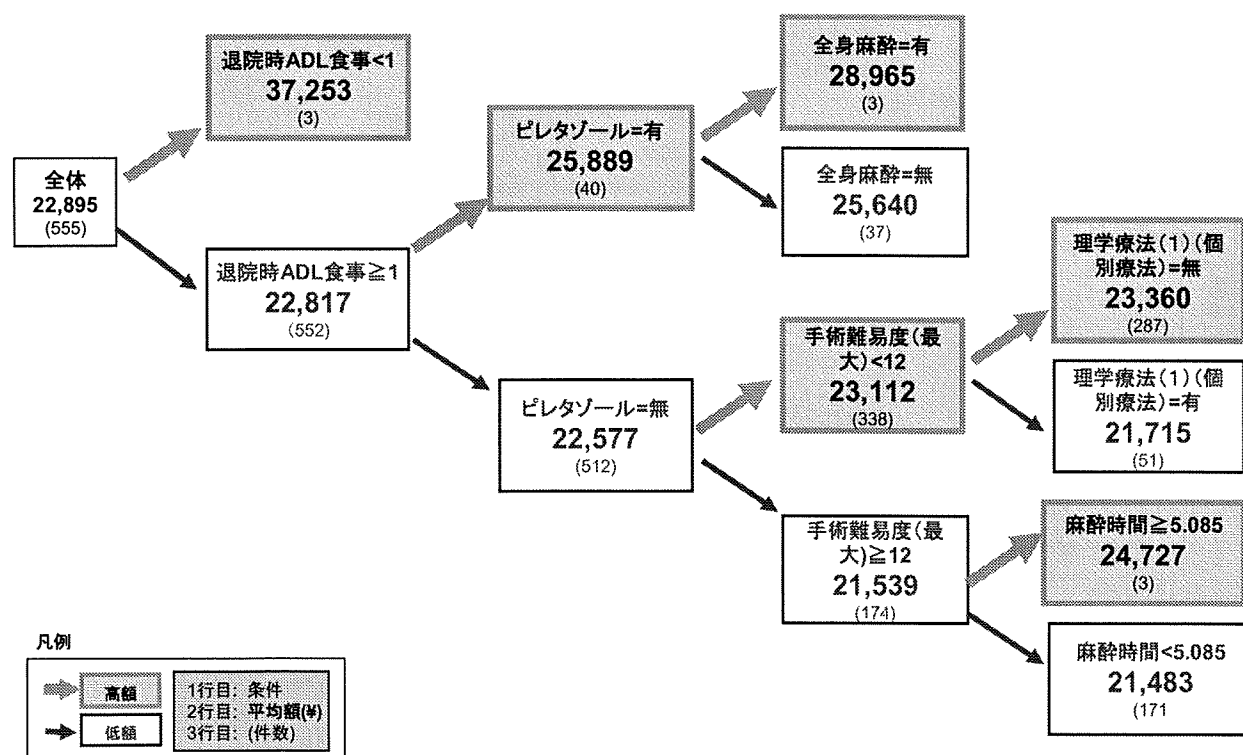


DPC6=160620 肘、膝の外傷(スポーツ障害等を含む。) 在院日数 回帰木分析

**在院日数回帰木分析から分かる在院日数の変化要因**

以下の要因によって在院日数が長くなる傾向がある。

- 手術点数(合計) ≥ 11,000
- アナペイン=有
- リハビリ=有
- フルマリン=有
- 人工靭帯(固定器具つき)=有
- 四肢単純MRI撮影=有
- T-M=有
- 固定用内副子(スクリュー)(その他・特殊・座金)=有
- アルスロマチック=無
- ホスミシン=有

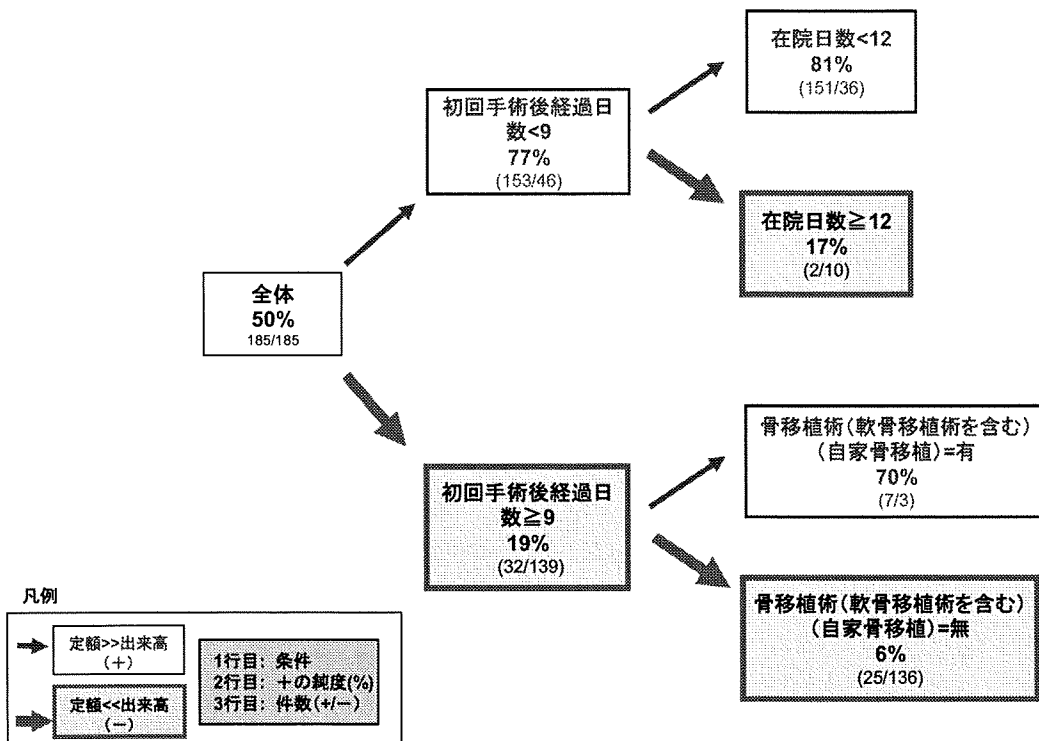


出来高換算額/日 回帰木分析から分かる出来高額の变化要因

以下の場合に1日あたりの出来高換算額(包括対象部分)が高くなる傾向がある。

- 退院時ADL食事<1
- ピレタゾール=有
- 全身麻酔=有
- 手術難易度(最大)<12
- 理学療法(1)(個別療法)=無
- 麻酔時間≥5.082

(\*) ADL食事  
 0: 全介助  
 1: 一部介助  
 2: 自立  
 9: 不明



**定額/出来高ギャップ分析から分かる問題点**

以下の条件の下では、特に顕著に 定額が出来高を下回る傾向がある。

- 初回手術後経過日数≥9
- 在院日数≥12
- 骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家骨移植)=無

## 参考資料 2

DPC プロセス・ベンチマーキング分析結果の概要